

2024年2月 (No.416)

主な内容とページ

半導体市場、回復に弾み	1
地域別では米中など前年比二桁増	2
半導体貿易は輸出入ともに過去最高	3
ハイブリッド車の国内生産は急伸	4
世界半導体企業 37 社、第 4 四半期、21 社が前年比増収.....	5
半導体産業は変わるか?	9
エヌビディアと AI	9
バブル後最高値?(SRL だより)	11

半導体市場、回復に弾み

半導体市場は AI(人工知能)チップの米エヌビディアの躍進、わが国ではハイブリッド車の生産拡大など回復に弾みをもたらしている。

1. 昨年後半からのエヌビディアの躍進は世界半導体市場に衝撃をもたらし、市場全体の伸びに上乗せをもたらす可能性が高まっている。
2. わが国ではハイブリッド車の生産が急増、今年も大きな伸びは必至とみられ、市場全体の底上げをもたらしそうだ。
3. AI や車用など市場拡大の一方、半導体の供給側では、成長の波に乗れる大企業の一方、苦闘する中小など違いが表面化しており、産業が変わる兆しが出ている。

バブル後最高値？

2月22日、日経平均株価が1989年末のバブル経済の頂点で記録した3万8,915円を更新した。34年ぶりに最高値を更新。日経新聞は即座に号外を発行、翌23日朝刊はトップでこの出来事を取り上げ「多くの日本人が二度と届かないと考えていたであろう天井を突き抜けた」と報じた。

個人的に「バブル後最高値」の表現に違和感をもっていた。最高値、過去最高ではなく、バブルを基準とした比較で、海外では説明が苦しい。下駄をはかせたみたいな慣用句で、最高、最大は下駄抜きで単純に比較すべき。ましてや二度と届かないとは煽動的すぎると思う。

半導体は、バブル頂点後も、最高を更新、わが国も生産ピークは2000年の5.84兆円で、元気は悪くなかった。ただし、世界全体の伸びは天井しらずで、日本の半導体は大きく後退した。株価はようやく立ち直ったが、日本だけでなく世界の中で比較、それは半導体でも同じ。浮かれている場合ではないと思うのだが。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複製、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複製利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2024 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2024年2月(毎月1回発行)第35巻2号(通巻416号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2024

SRL Monthly Report

February 2024, No.416

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)